恐怖によって人間の体温は本当に低下するのか

福井県立武生高等学校

1,はじめに

肝試しといえば夏という考え方は現代の日本人に強く根付いてる。私も肝試しの経験があり、その際の肌寒い感覚を今でも覚えている。しかし、本当にその時の体温は低下していたのか。ここでは、「恐怖によって人間の体温は本当に低下するのか。」を問いとし、体温の低下の真偽とともに、もし変化があった場合どのように変化し、その原因は何なのかを調べることを目的とする。

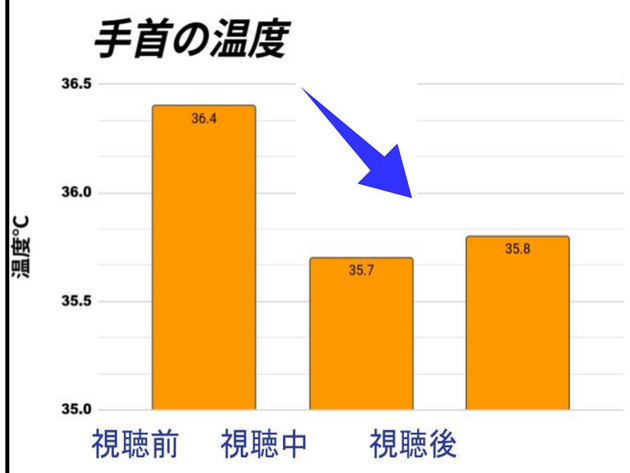
2,検証方法

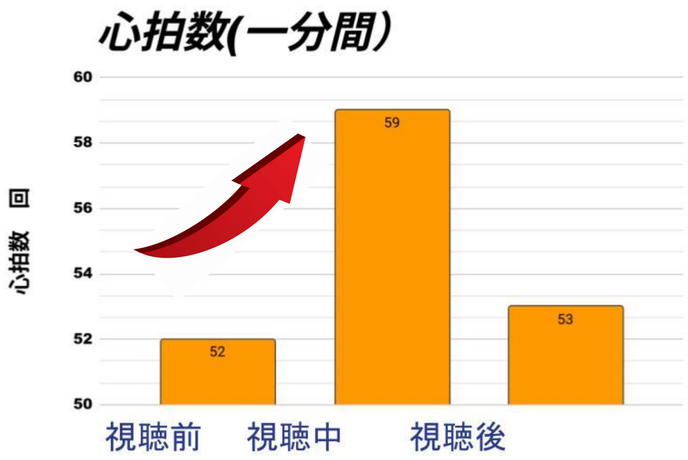
1，恐怖を感じることのできる動画を視聴する。

2，視聴前、視聴中、視聴後の三回に分けて体温を測る。また、脇と手首の二箇所を測定。（脇は体の中心温度に近く、手首は体の表面温度に近い。）

3，それぞれ心拍数も測定。

3,結果





手首の温度
低下
脇の温度
上昇
心拍数
上昇

4,考察

・心拍数の増加により、体の中心の温度は上昇、体の中心から離れた部分の温度は低下した。
・突発的な恐怖により一時的に心拍数が増加し、心臓部分に血液が集まる。それにより、体の中心温度が上がった。
・つまり体温は増加し、心拍数が原因である。
・また、櫻井勝康「匂い物質による恐怖反応に伴う体温低下の神経メカニズム」によると、命の危機や極度の恐怖を感じたときには体温は低下する。

5,結論

人の体温は心拍数の変化が原因で恐怖を感じると基本的に体温が上昇するが、一部の特殊な条件下においては体温が低下するときもある